

第2 調査結果の概要

I 市民生活

1 居住区

「港北区」が9.2%、「青葉区」(8.2%)、「戸塚区」(7.9%)、「旭区」(6.9%)で上位

居住区について聞いたところ、「港北区」が9.2%と最も多く、次いで「青葉区」(8.2%)、「戸塚区」(7.9%)、「旭区」(6.9%)などの順になっている。一方「瀬谷区」が2.6%と最も少なく、次いで「西区」(2.7%)、「中区」(3.2%)などとなっている。(問1/32 ページ)

2 生活満足度

『満足』している人は57.3%

今の生活の満足度について聞いたところ、「満足している」(13.8%)と「まあ満足している」(43.5%)を合わせた『満足(計)』は57.3%となっている。一方、「やや不満がある」(12.7%)と「不満がある」(8.9%)を合わせた『不満(計)』は21.6%となっている。(F11/33 ページ)

3 居住意向

定住意向は75.6%

今後も横浜市に住み続けたいかについて聞いたところ、「住み続けたい」(46.4%)と「どちらかといえば住み続けたい」(29.2%)を合わせた『定住意向(計)』は75.6%となっている。一方、「どちらかといえば他の市に移りたい」(4.4%)と「他の市に移りたい」(2.3%)を合わせた『転出意向(計)』は6.7%となっている。(F12/35 ページ)

II 政治意識

1 市政への関心

横浜市政に関心を持っている人は67.7%

横浜市政への関心について聞いたところ、「非常に関心を持っている」(16.7%)と「多少関心を持っている」(51.0%)を合わせた『関心がある(計)』は67.7%となっている。一方、「あまり関心を持っていない」(13.1%)と「まったく関心を持っていない」(3.9%)を合わせた『関心がない(計)』は17.0%となっている。(問8/37 ページ)

2 政治関心レベル

「国政レベル」への関心が46.5%

政治上の問題、できごと、行政の動きなど、どのレベルに最も関心を持っているかについて聞いたところ、「国政レベル」が46.5%で最も多く、次いで「市政レベル」(15.8%)、「県政レベル」(3.9%)の順となっている。また、「どれにも同じように関心がある」が24.1%となっている。(問9/40 ページ)

3 支持政党

支持政党が「ある」人は33.6%

支持政党の有無を聞いたところ、「ある」が33.6%、「ない」が64.9%となっている。(問7/43 ページ)

4 政治・選挙意識

(1) 政治は、われわれの日常生活とは切り離せないものだ

『そう思う (計)』が78.0%、『そう思わない (計)』が6.5%になっている。(問10/46ページ)

(2) 選挙があるからこそ、有権者の声が政治に反映するようになる

『そう思う (計)』が44.7%、『そう思わない (計)』が27.7%になっている。(問10/47ページ)

(3) 投票には行くが、それ以上は政治にかかわりたくない

『そう思う (計)』が26.5%、『そう思わない (計)』が31.6%になっている。(問10/48ページ)

(4) われわれが努力したところで、政治はよくなるものではない

『そう思う (計)』が46.3%、『そう思わない (計)』が25.4%になっている。(問10/49ページ)

Ⅲ 統一地方選挙での投票行動

1 選挙を知った方法

(1) 選挙を知った方法

「ポスター掲示場の候補者のポスターから」が55.5%

今回の選挙が行われることを何で知ったか聞いたところ、「ポスター掲示場の候補者のポスターから」が55.5%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオの報道から」(44.2%)、「投票のご案内(封書で世帯ごとに郵送)」を受け取って(38.3%)、「候補者の選挙運動(街頭演説、候補者の選挙カーなど)を見たり聞いたりして」(35.3%)、「新聞・雑誌等の報道から」(32.3%)の順となっている。(問4/50ページ)

(2) 見聞きしたもの

「投票のご案内」が53.3%、「自治会・町内会の掲示板ポスター」が46.7%

統一地方選挙の投票参加の呼びかけにおいて、見たり聞いたりしたものについて聞いたところ、「投票のご案内(封書で世帯ごとに郵送)」が53.3%で最も多く、次いで、「自治会・町内会の掲示板ポスター」(46.7%)、「横断幕・懸垂幕・看板・フラッグ」(30.8%)、「『広報よこはま』(3月号)」(26.1%)などの順となっている。(問5/52ページ)

(3) 印象の強かったもの

「自治会・町内会の掲示板ポスター」が23.5%、「投票のご案内」が23.2%

統一地方選挙の投票参加の呼びかけにおいて、見たり聞いたりしたもののうち印象の強かったものについて聞いたところ、「印象の強かったものはない」を除き、「自治会・町内会の掲示板ポスター」が23.5%で最も多く、次いで、「投票のご案内(封書で世帯ごとに郵送)」(23.2%)、「横断幕・懸垂幕・看板・フラッグ」(12.8%)、「駅や鉄道車内のポスター、デジタル動画」(11.0%)などの順となっている。(問5/55ページ)

2 投票への参加状況

(1) 投票への参加状況

当日に投票した人は 47.4%、期日前投票又は不在者投票をした人は 17.3%、投票した人の計は 64.7%

統一地方選挙への参加状況を聞いたところ、「投票した（投票日当日）」が 47.4%で最も多く、次いで「投票しなかった」が 35.1%、「投票した（期日前・不在者）」が 17.3%の順になっており、投票した人の合計は 64.7%となった。（問 2 / 58 ページ）

(2) 投票の動機

「投票することは国民の義務だから」が 52.2%

統一地方選挙で「投票した」と答えた方（1,491 人）に、投票の動機について聞いたところ、「投票することは国民の義務だから」が 52.2%と最も多く、次いで「生活をよくするために投票することが大切だから」（51.4%）、「投票することは権利だから」（51.0%）などの順となっている。（問 2-1 / 61 ページ）

(3) 候補者選定の基準

「政策や主義・主張」が 51.9%

統一地方選挙で「投票した」と答えた方（1,491 人）に、候補者選定の基準について聞いたところ、「政策や主義・主張」が 51.9%と最も多く、次いで「われわれの立場の代表者としてふさわしいかどうか」（16.3%）、「支持政党の推す候補者かどうか」（13.3%）、「人柄や人物」（9.0%）の順になっている。（問 2-2 / 64 ページ）

(4) 期日前・不在者投票制度を利用した理由

「選挙当日に予定があったから」が 40.9%

統一地方選挙で「投票した（期日前・不在者）」と答えた方（399 人）に、期日前・不在者投票制度を利用した理由を聞いたところ、「選挙当日に予定があったから」が 40.9%と最も多く、次いで「期日前投票所の方が行きやすいから」（23.3%）、「期日前投票所が、通勤や買い物などの生活動線上にあり、寄りやすかったから」（15.0%）、「当日は混むと思ったから」（7.8%）の順になっている。（問 2-3 / 66 ページ）

(5) 投票しなかった理由

「投票したい候補者がいなかったから」が 35.1%

統一地方選挙で「投票しなかった」と答えた方（809 人）に、棄権の理由を聞いたところ、「投票したい候補者がいなかったから」が 35.1%で最も多く、次いで「仕事など選挙より重要な予定があったから」（23.2%）、「あまり関心がなかったから」（21.9%）、「どの候補者に投票すればよいかわからなかったから」（21.3%）、「自分が投票したところで結果は変わらないから」（15.7%）などの順となっている。（問 2-4 / 68 ページ）

(6) 投票に行こうと思う条件

「投票したいと思える候補者がいたら」が 52.8%

統一地方選挙で「投票しなかった」と答えた方（809人）に、投票に行こうと思う条件を聞いたところ、「投票したいと思える候補者がいたら」が52.8%で最も多く、次いで「関心のあることが選挙の争点になっていたら」（29.3%）、「候補者の意見や人柄などをもっとよく知る方法があったら」（26.9%）、「投票に行くことで、割引がうけられるなどお得になる制度があれば」（20.1%）、「普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票ができれば」（19.7%）などの順となっている。（問2-5/70ページ）

3 投票のご案内について

（1）「投票のご案内」の確認状況

「投票のご案内」を見た人は84.4%

「投票のご案内」を見たか聞いたところ、「見た」が84.4%、「見ていない」が14.8%となっている。（問3/73ページ）

（2）「投票のご案内」の持参状況

「投票のご案内」を持って行った人は66.3%

「投票のご案内」を「見た」と答えた方（1,944人）に、投票所への持参状況について聞いたところ、「持って行った」が66.3%、「持って行かなかった」が4.2%となっている。（問3-1/75ページ）

（3）「投票のご案内」を持参しなかった理由

「無くても投票できることを知っていた」が68.3%

「投票のご案内」を「持っていかなかった」と答えた方（82人）に、持って行かなかった理由について聞いたところ、「無くても投票できることを知っていたから」が68.3%と最も多く、次いで「持っていくものだということを知らなかったから」（19.5%）、「持っていくのを忘れたから」（8.5%）となっている。（問3-2/77ページ）

4 選挙運動の接触と効果

（1）見聞きした、勧められた選挙運動等

「候補者のポスター」が52.2%

今回の統一地方選挙で、見聞きした、勧められた選挙運動等を聞いたところ、「候補者のポスター」が52.2%で最も多く、次いで「選挙公報」（30.3%）、「候補者の街頭演説や個人演説会」（27.3%）、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論」（24.3%）、「候補者の選挙運動用自動車や街頭における氏名の連呼」（22.5%）などの順となっている。（問6/79ページ）

（2）候補者の選定に役立った選挙運動等

「選挙公報」が35.7%

今回の統一地方選挙で投票した方（1,491人）に、候補者の選定に役立った選挙運動等について聞いたところ、「選挙公報」が35.7%で最も多く、次いで「候補者のポスター」（25.8%）、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論」（19.8%）、「候補者の街頭演説や個人演説会」（13.1%）、「候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）」（11.3%）などの順となっている。（問6/80ページ）

(3) 選挙運動等の有効率

「選挙公報」が 90.2%

統一地方選挙で「投票した」と答えた方(1,491人)が見聞きした、勧められたもののうち、候補者の選定に役立ったと回答した割合を「有効率」として表した。有効率は、「選挙公報」が90.2%で最も多く、次いで「候補者のインターネットによる選挙運動(ホームページ、電子メール等)」(86.3%)、「候補者のSNSによる情報発信」(83.0%)などの順となっている。一方、有効率の低いものは、「電話による勧誘」(11.9%)、「候補者の選挙運動用自動車や街頭における氏名の連呼」(18.9%)などとなっている。(問6/81ページ)

IV 投票率や制度の改善に関する意識

1 投票率の低下

「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」が 58.2%

最近の選挙での投票率の低下について聞いたところ、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」が58.2%と最も多く、次いで「自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくないが、やむを得ないと思う」(22.1%)、「投票するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(11.1%)などとなっている。(問11/82ページ)

2 若年層における投票意識の向上

「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」が 55.3%

若年層における投票意識の向上について聞いたところ、「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」が55.3%で最も多く、次いで「家族が投票に行く」(37.1%)、「新聞やテレビ等での政治や選挙についての報道」(24.9%)の順となっている。(問12/84ページ)

3 政治や選挙に関する学校教育

「受けたことがある」が 35.3%

政治や選挙に関する学校教育について聞いたところ、「受けたことがある」が35.3%で最も多く、次いで「分からない・覚えていない」(34.2%)、「受けたことはない」(28.6%)の順となっている。(問13/86ページ)

4 学校教育と投票行動の関連性

「繋がらなかった」が 38.5%

政治や選挙に関する学校教育について「受けたことがある」と答えた方(813人)に、学校教育と投票行動の関連性について聞いたところ、「繋がらなかった」が38.5%で最も多く、次いで「繋がった」(32.2%)、「分からない」(29.3%)の順となっている。(問13-1/88ページ)

5 棄権に対する考え方

「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」が 35.9%

棄権することについて聞いたところ、「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」が 35.9%で最も多く、次いで「政治への不信から棄権するのも無理はない」(26.2%)、「棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(17.4%)の順となっている。

棄権に対して「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」(35.9%)と「選挙権は、国民に与えられた政治参加の機会であるから、棄権はいけない」(15.2%)を合わせた『否定的な意見(計)』は、51.1%となった。一方、「政治への不信から棄権するのも無理はない」(26.2%)と「棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(17.4%)と「今の政治と政治家に反省を求めるために、むしろ1人でも多くの有権者が棄権した方がよい」(1.0%)を合わせた『肯定的な意見(計)』は、44.6%となった。(問 14/89 ページ)

6 投票所施設

(1) 投票所施設への不満の有無

不満がない人は 78.2%、不満がある人は 20.3%

投票所の施設などについての不満を聞いたところ、不満が「ある」が 20.3%、「ない」が 78.2%となっている。(問 15/91 ページ)

(2) 投票所施設への不満点

「投票所までの距離が遠い」が 45.2%

投票所の施設などについて不満が「ある」と答えた方(467人)に、不満に思うことは何か聞いたところ、「投票所までの距離が遠い」が 45.2%で最も多く、次いで、「投票所の雰囲気堅苦しい」(25.1%)「有権者が多く、並んで待たなければならない」(19.1%)などの順となっている。(問 15-1/94 ページ)

7 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度と病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度(不在者投票制度)の認知

(1) 郵便投票制度、不在者投票制度の認知度

「いずれの制度も知っていた」は 29.8%

郵便投票制度や不在者投票制度を知っているか聞いたところ、「いずれの制度も知っていた」は 29.8%、「郵便投票制度のみ知っていた」は 4.0%、「不在者投票制度のみ知っていた」は 17.1%となっている。(問 16/96 ページ)

(2) 郵便投票制度、不在者投票制度を知ったきっかけ

「『投票のご案内』同封の啓発チラシ」が 43.4%

いずれかの制度について知っていたと答えた人(1,172人)に、知ったきっかけを聞いたところ、「『投票のご案内』同封の啓発チラシ」が 43.4%で最も多く、次いで、「『広報よこはま』」(25.5%)、「『暮らしのガイド』」(8.3%)などの順となっている。(問 16-1/96 ページ)

V 選挙意識

1 政治家の寄附が罰則の対象となることの認知と認知媒体

(1) 政治家の寄附が罰則の対象となることの認知

政治家の寄附が罰則の対象になることを「知っていた」人は88.9%

政治家が選挙区内の人に寄附をすることは禁止されており、原則として罰則の対象となることを「知っていた」人は88.9%、「知らなかった」人は10.3%となっている。(問17/100ページ)

(2) 政治家の寄附が罰則の対象となることを知ったきっかけ

「テレビ、ラジオ」が56.4%

政治家の寄附が罰則の対象となることを「知っていた」と答えた方(2,049人)に、知ったきっかけを聞いたところ、「何で知ったか忘れた」を除き、「テレビ、ラジオ」が56.4%で最も多く、次いで「新聞」(22.3%)、「家族や知人の話」(11.4%)などの順となっている。(問17-1/100ページ)

2 罰則をもって禁止されている寄附にあたるもの

「お歳暮やお中元、おみやげ」が87.0%

罰則をもって禁止されている寄附にあたるものを知っているか聞いたところ、「お歳暮やお中元、おみやげ」が87.0%で最も多く、次いで「お祭りへの寄附や差し入れ」(57.5%)、「地域の運動会やスポーツ大会への差し入れ」(48.7%)、「秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典」(48.2%)、「葬式の花輪、供花」(47.4%)の順となっている。(問18/103ページ)